SAPOSEN
ふくしま地域活動団体サポートセンター

ふくしま地域活動団体サポートセンター
ニュースレター Vol.1　2014.6.20 発行

新しい塚原公会堂の完成をお祝いする地域住民の方々

～表紙に寄せて～

「復興のシンボル」の完成！

東日本大震災の津波によって全壊の被害を受けた塚原公会堂（南相馬市小高区）が再建され、5月17日に落成式が行われました。

地域住民が主導して、南相馬市をはじめとする行政、コアハウスワーキンググループ（筑波大学・東京工業大学）、アーキエイド（仙台市）や、海外（日米協会）からの支援など、実に多様な人々や団体からのつながりによって、完成したプロジェクトです。その主軸として尽力した今野由喜氏（特定非営利活動法人つながっぺ南相馬理事長）は、完成に際しての思いを日本語、そして英語でスピーチをしました。

木造平屋建ての建物は、母屋を集会所、分棟は会議室・キッチンとなっており、板張りのテラスでつながっています。公会堂の屋根には、太陽光パネルが敷設されています。

復興・再生へと向かうなか、「復興のシンボル」として、多くの方々が訪れ、利用することで復興活動拠点となることが期待されます。

Contents

●復興のチカラ～ Pickup NPO ～ …… 2
●ふくしま情報RUN
―つながる・ひろがる情報広場―（機関紙版）… 3
●【特集】NPOの可能性を求めて …… 4-5
●スタッフ 見・聞・録 …… 6
●チャレンジ！助成金情報…… 7
●メッセージF ～リレーコラム～…… 8
●新たに認証を受けたNPO団体 …… 8
●学びへの一冊…… 8
●編集後記…… 8

「復興」をテーマに取り組んでいる地域活動団体をご紹介します。

復興のチカラ～Pickup NPO～

■特定非営利活動法人つながっぺ南相馬　～「被災者」と「支援者」を結ぶ拠点～

平成25年1月24日認証　南相馬市

コミュニティサロン活動をおこなっている「つながっぺ南相馬」の今野由喜理事長を訪ねてみました。

同団体は、南相馬市鹿島区の応急仮設住宅の集会所を利用して、震災と原子力発電所の過酷事故に伴う被災者向けに、係員を常駐させた「癒しのサロン」を運営しております。現在では、同市において、4ヶ所のサロンを運営しております。

みんなが集える場づくりを提供することを目的として、カラオケ大会など様々なお楽しみイベントを実施しています。一方で、長引く避難生活によりストレスを抱えた住民が多い現状から、専門医と連携し、ストレス解消教室、心のケア講座などを開催しています。仮設住宅での孤独化も深刻です。予防のための見守り活動にも力が入ります。

▲応急仮設住宅の集会所で活動中

仮設住宅の側には、きゅうりやなすなどの身近な野菜や花などの小さな菜園も設けました。なによりも住民の生きがいとなっています。

▲輪投げでストレス解消！

理事長ご自身も津波の被災者です。地震直後、地区の見回りの中、車ごと津波の濁流にのまれ、消防団員に助け出されたと話します。原子力発電所の事故で、一時、避難を余儀なくされましたが、ふるさとへの強い思い、多くの苦しむ被災者の現状を見て、同団体を立ち上げました。

「癒しと絆」「心と体の健康」「生活再建・自立支援」を目指し、いつかふるさとへ帰れる日まで、希望を失わず避難生活を過ごせるように日々支援活動中です。

■特定非営利活動法人コースター　～「地域×若者」で地域を守り立てるサポートを～

平成25年3月1日認証　郡山市

コースターは、2012年10月の設立以来、地域をより良くしたい若者がその実現に向けて活動しやすい環境をつくり、地域変革の担い手を増やしていくことを視座においた活動を行っています。

主な取り組みとして、学生や社会人が集える場を提供する「コミュニティスペース事業」、学校の現場と連携して社会の先輩を講師に招き、中高生に仕事や生き方の多様性にふれてもらう「キャリア教育事業」、そして「田村市復興応援隊事業」があります。

▲南会津中学校で実施したキャリアセミナーのようす

昨年7月にスタートした田村市復興応援隊事業（市委託）では、20代30代を中心とした隊員9名が都路地区で活動し、地域イベントのお手伝いや都路かわら版発行などを通したコミュニティ再生支援を行っています。

▲都路住民の座談会のようす（中央が復興応援隊員）

今では都路住民から「野菜直売所をつくりたい」「廃校を利活用できないか」など前向きな声があがるようになりました。また「皆で気軽に集まれる拠点をつくりたい」との住民の声からスタートした古民家再生プロジェクトは、6月に寄り合い処のオープンというかたちになって実現しました。岩崎代表理事は、田村市復興応援隊の活動を「地域再生への想いのたねを芽吹かせて花を咲かせる仕事」と語ります。住民が自ら動き出すことを守り立て、住民主体の復興を加速させることを目的に、隊員は日々奮闘しています。

ふくしま情報RUN

―つながる・ひろがる情報広場―

機関紙版

協働はそれぞれの特性を活かした活動の手法です。お互いのポジションを尊重し合いながら進めた協働事業をお伝えします。

NPOと連携・協働

Q1. 連携・協働ってなんですか？

異なる主体が、対等の立場で、限定された問題・課題に対して、共通の認識を共有し、一定期間、連携して取り組むことをパートナーシップといいます。パートナーシップは連携や協働とも呼ばれますが、市民相互、市民団体相互のパートナーシップを「連携」、NPOや市民と自治体とのパートナーシップを「協働」と区別するとわかりやすくなります。社会的サービス供給の担い手として、行政は縮小かつ公平性の原則にしばられ、企業は収益性への特化を避けることができません。NPOによる協働・連携の目的は、生活者ニーズの充足のために、行政や企業が単独では扱いにくい社会的サービスを提供することにあります。

Q2. NPOにとって協働することのメリットは？

行政と協働することはNPOにも多くのメリットをもたらします。①組織のミッションを効果的に実現することができます。②協働することによって活動の場や幅が広がります。③行政が持つ情報や調査力を活用できます。④委託費や助成金収入を得ることにより財政基盤が安定します。⑤NPOの持つ情報や知識を行政に公式に伝えることができるようになります。⑥行政との協働の実績を積み上げることで、団体の社会的な認知と信用が高まります。

（福島県NPOアクセスページ　―県内NPO法人基本情報―　NPO法人活動のQ&Aより）

■企画企業

「ふくぎん　みんなのサポート市民活動助成金」

この助成金は、株式会社福島銀行の創立90年記念事業の一環として創設された制度です。認定特定非営利活動団体ふくしまNPOネットワークセンターとの連携により福島県内の団体に助成をおこなっています。

審査のポイントは、活動の「実行可能性」「社会性」「先進性」「継続性・波及効果」「経費の妥当性」だそうです。「なかでも「継続性・波及効果」については同審査会のなかでも大きなポイントです」と担当者の吉田さんは話します。

さらには「本助成を通じて、真面目に社会に対して活動され、頑張っている人を少しでも応援したい」「それぞれの助成事業が県内で頑張っている人の応援となることを期待します」と温かい言葉をいただきました。

現在、福島銀行では、社会貢献への取組み強化のため、本助成制度以外にも様々な活動をおこなっています。「みんなの尾瀬」「公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金」などです。今後の未来づくりのために、元気に活動している団体を応援しています。

▲平成 25 年度の助成金贈呈式

助成先団体	
平成24年度	・ふるさとの川・荒川づくり協議会
	・NPO法人 地域生活支援ネット OneOne
	・NPO法人 陽だまりハウス
平成25年度	・チャイルドラインふくしま
	・ARTS for HOPE 福島支局
	・NPO 法人あっとホームサービス

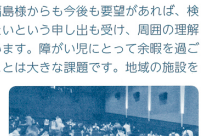
■活動団体

～福島銀行90周年事業「ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金」の支援を受けて～

特定非営利活動法人 地域生活支援ネットOneOne（福島市）

活動歴：平成13年2月、「わんわんクラブ」（放課後支援の自主運営クラブ）スタート。
15年度より福島市のモデル事業として活動。
16年度より新たに学童部門を開設。
17年度よりNPO法人の認証を受け、「地域支援ネットOneOne」として新スタート。

福島銀行の助成金の支援により「障がいのある子どもに、映画館で映画を見せたいけれど、なかなか機会がない」という家族のために貸切上映「障がいのある子どものためのファミリー映画鑑賞会」を実現。周りに気兼ねすることなく、最後まで映画を楽しむことができ、映画館利用のマナーを学ぶ機会にもなりました。また、映画館に限らず、利用者側の視点から障がいに応じた配慮を地域の施設にも伝えていくことが必要な課題になりました。今回、ご協力いただいたイオンシネマ福島様からも今後も要望があれば、検討し積極的に協力したいという申し出も受け、周囲の理解が深まったと感じています。障がい児にとって余暇を過ごす場を地域に広げることは大きな課題です。地域の施設を活用するスキルを障がい児とその家族や介助者に学んでもらい、子どもたちが地域の中で輝く笑顔を見せてくれる。それがOneOneの願いです。


▲みんなが楽しみに待った貸切上映会のようす

特集 NPOの可能性を求めて

平成26年度を迎えて、ふくしま地域活動団体サポートセンターの機関誌もリニューアルしました！
第1回の特集ページでは鼎談でこれまでをふりかえり、今後の課題について3人にお聞きしました。

（インタビュアー：ふくしま地域活動団体サポートセンター　サブチーフ／伊藤　孝信）

Q1：昨年度のふくしま地域活動団体サポートセンターの事業実績・評価について

星野：震災復興において、支援内容が多岐にわたり個別化、多様化、複雑化してくると、NPO側の力量がますます問われてくる状態になってきています。震災から3年経っても決して解決しておらず、ますますNPOに対する期待も大きくなっているのではないかと感じています。昨年度、「人材の問題」、「資金の手当て」や「マネジメント運営能力の強化」などを織り込んだ講座を実施してきました。NPOの目的を明確にしながら、理論を中心としたセオリーを重視したものと、実践・実務的な講座として展開するものが必要になってきている時期かとも考えています。

藤田：昨年度は（NPO等の運営力強化として）一通りのメニューを準備して色々なニーズに応えられるように、基礎的な講座を数多く開催しました。一方で、震災後から年月が経過していくなかで、各個人や各団体のみでは解決できない課題があり、いかにネットワークをつくっていく必要があるのかというテーマもありました。

中間支援ネットワークづくりとしての「情報交換会」や様々な支援団体が集まる機会を設けた「円卓会議」を実施しました。また、「ふるさと・きずな維持・再生支援事業成果報告交流会」は、初めての取り組みとなりましたが、県内外の復興支援・被災者支援団体が一堂に会する機会となり、とても大きな成果があったと感じております。このようなネットワークづくりを重視した事業ができたことは一歩前進だったのではないかと考えています。

Q2：NPOの認証件数の推移・申込状況や地域的な傾向はありますか？

藤田：NPO法人の認証件数をみますと、22年度までは年間50件ほどだったのが、23年度は74件、24年度は108件、25年度は76件で、震災後、約1.5倍～2倍の設立があります。

市町村別にみると4市（福島市、郡山市、いわき市、会津若松市）は従来から多く、震災後も大きく変わらないですが、特に震災の被害が大きかった須賀川市や、沿岸部の南相馬市や相馬市等のNPO法人の設立が目立ったのが特徴的だと感じました。

星野：沿岸部の市町村が多いですかね？

藤田：震災以降の認証件数は、南相馬市は11件（23件から34件へ）、相馬市は12件（22件から34件へ）増えております。いわき市は震災前が70件でしたが、41件増えております。また、内陸部の須賀川市は震災前が13件でしたが、8件の増加がみられます。

▲これからのNPOの役割やそこで働く人たちについて熱く語る星野理事長

星野：災害ユートピアというタイトルの本があります。大きな災害があったところに市民が立ち上がるという話なのですが、震災直前のNPO認証数で去年の9月末のNPO認証数を各都道府県別に割り算をして伸び率を出したところ、福島県が第1位になっております。

都市部でも間接的な反応があり、震災復興の対応として、中通りで増えたところが結構見られます。「震災の現場」と「支援の都市部」のところが増えています。特に福島県の場合は原発問題があるので全国で第1位の伸び率を示していますね。

Q3：今年度事業での大きな柱となる「協働推進プラットフォームづくり」について、どのような視野で捉えていますか？

星野：何かことが起こってから協働するというのは、なかなか進まないケースが多くて、普段からテーブルを囲んで話し合いができるような状況を作っておかないといけないという反省はあります。そのような反省点を踏まえて、ボランティア関係者、社会福祉協議会などとの「円卓会議」や「情報交換会」など日常的な意見交換の努力が必要かなと思います。

藤田：今までは、皆さんが目前の課題を解決するのに駆け抜けてきたと思います。（一方で）震災後3年を迎えて個々の力では限界があるということで、多様な主体が自分たちの強みやノウハウを生かすこと、それぞれが役割分担をして、連携することによって大きな効果を生む、「協働」ということが大きなひとつの突破口になるという思いがあります。

皆さんが福島のために、支援して復興していきたいと

いうことの目標は一緒ですが、手段がバラバラで重複する部分や、（一面的に見ると）無駄な労力を費やしてしまうことなどがあります。
また、逆に（相互間での）隙間も生まれてしまっており、それらが「つながる」ことによっていいものが生まれるのではないかと感じています。さらには、「NPOの見える化」というところを今年度は力を入れて、支援の輪を広げていきたいと思います。

齋藤：皆さんとの情報の提供と共有ですね。NPOの分野だけではなく、今年度は特に企業につながることのメリットを探り、新たな開拓として力を入れていきたいです。

Q4：本年の事業で最も取り組みたい課題、これからのビジョンについて

星野：NPOで働いている方々に、NPOで働いて良かったという実感を持ってもらいたいですね。震災復興疲れと言いますか、そのような言葉が聞かれます。決して一般企業に比べて給料水準が高いわけでもなくて、大変な状況にあっても、NPOは「縁の下の支え役」になっているわけです。そういう中である種の価値観と言いますか、ここで働いて良かったと実感してもらえるような職場づくり、仕事づくりができていかないと、皆さん疲弊してしまうのではないかと危惧しているところです。

▲前年度の評価と今後の課題、事業について意見を交わしました

藤田：行政ではやはり公平・公正を求めざるを得ない一方で、地元に根付いた、そして専門性を生かした、地域の人たちに寄り添った支援をしていただいているNPOの活動を後押しするとともに、復興に向けて一緒になって取り組んでいきたいです。
また、行政とつながることで（それぞれの地域）市町村全体として取り組むのか、企業と連携していくことでさらに新しいステージで活動するのか、活躍の場をどんどん広げ、可能性を引き出せるようなことを少しでも支援していきたいと思っております。

齋藤：福島県民は、いま「学びのとき」だと思います。当代の私たちが学びながら地域の課題解決にとり組むことでNPOの役割を果たしていきましょう。そして、協働の力で次世代へ美しいふくしまを繋いでいきましょう。

星野　珙二 氏
ふくしまNPOネットワークセンター理事長
福島大学名誉教授
福島大学名誉教授

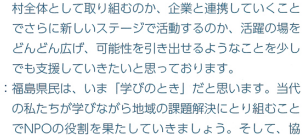
福島大学で経営工学の教鞭をとる傍ら、2000年にNPO法人ふくしまNPOネットワークセンター設立に尽力。その後センターの中枢として、地域民間非営利活動に奮闘するほか、文化や産業振興など多方面でアドバイザーとして奔走している。

藤田 貞由美 副主査
福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課

福島県職員として、文化振興政策の実施やNPO等地域活動団体の支援事業及び協働推進事業を担当。

齋藤　美佐 氏
ふくしまNPOネットワークセンター常務理事

ふくしま地域活動団体サポートセンター所長。地域づくりコーディネーター、イベントのアナウンスや講演活動をとおして実践的な社会貢献をめざし、現在に至る。



▲平成26年度事業スタート。みんなでがんばっていきます！

参加無料 開催予定のお役立ち講座のお知らせ

Check!

平成26年度の講座を県内各地で開催します。各回参加無料ですので、お気軽にご参加ください。

開催場所・日程等については、順次、当センターのチラシ・ＨＰ等でご案内します。

●NPO設立基礎講座
二本松・白河（10月中旬予定）

●NPO会計基準と会計実務講座
基礎編　喜多方・いわき（7月下旬予定）
実践編　福島・郡山（10月上旬予定）

●ITを活用したファンドレイジング講座
福島・郡山・会津若松・南相馬（9月中旬予定）

●ファシリテーション講座
初級編　伊達・須賀川（9月上旬予定）
中級・上級編　福島・郡山（11月上旬予定）

7月スタート！ NPO なんでも相談日

専門家やアドバイザーによるNPOに関する相談所を**毎月第2火曜日午後1時30分より**実施します！
ふくしま地域活動団体サポートセンターにて受付中（要予約）。

スタッフ 見・聞・録

さまざまな支援事業やイベントなどを体験型レポートでお届けします。

●ボランティアフェスティバル

第24回全国ボランティアフェスティバルふくしま（通称：ボラフェス）
～第1回実行委員会～

ボランティアの語源はラテン語で「ウォロvolo」といいます。かつてイギリスでは志願兵を「ボラ」と呼び、フランスでは「ボラ」を書びの精神と解釈していました。

日本では町内会などの地縁組織の社会奉仕活動が原点であり、昭和52年に「全国ボランティアのつどい」が開催され、それが今回のボラフェスの前身となっています。

「全国ボランティアフェスティバルふくしま」は平成27年11月21日（土）~22日（日）ビッグパレットふくしまをメイン会場に開催される予定で、この日、県内の社会福祉協議会をはじめ多岐にわたる分野から実行委員会が構成され、実行委員長には福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長の中田スウラさんが選出されました。この機会に実行委員である社会福祉協議会等とNPOの連携や協働が展開されることを期待しています。

テーマ決定！「“ありがとう”未来につなごう　ふくしまから」
（ふくしま地域活動団体サポートセンター所長／齋藤 美佐）

事務局：社会福祉法人　福島県社会福祉協議会
開催日：平成26年5月1日　会場：ビッグパレット福島（郡山市）

●NPO／NGOの組織基盤強化のためのワークショップ in 仙台

夏を先取りしたような日差しの中、仙台市で開催された組織基盤強化のためのワークショップに参加してきました。東北各県のNPOで活動している参加者が一堂に会したセミナーです。

基調講演では、日本NPOセンター代表理事 早瀬昇氏がご自身のNPOとの深いかかわりから得た経験、知見を織り交ぜながら、ユニークを交じえて語られました。続いて事例報告です。Panasonic NPOサポートファンドを活用して、組織発展につながった「NPO法人銀杏の会」（東京都）「NPO法人グループゆう」（宮城県）が発表しました。

最後に、7グループ毎にワークショップを行い、各組織の課題について意見を交わしました。全体発表も行われ、各団体が抱える課題を共有しました。Panasonicの今年度の助成ファンドの説明も非常に参考になりました。最後の交流会では、多くの方々の楽しい会話が弾んでいました。
（ふくしま地域活動団体サポートセンター サブチーフ／伊藤 孝信）

主催：杜の伝言板ゆるる　　共催：Panasonic
開催日：平成26年5月30日

情報ライン 中間支援サポートセンター情報掲示板

Support Center Information

福島市

成年後見制度　説明会/後見に関する個別相談会

高齢期を迎え、最後まで安心して自分らしく生活を送れるように手助けをしてくれる制度をわかりやすく説明します。

- ○日　時：毎月第2木曜日（7月10日、8月14日、9月11日）
  10:00～11:30、18:30～20:00
  ※夜の部は偶数月のみ開催
- ○場　所：福島市中央学習センター
- ○参加費：無料（別途資料代300円）
- ○お問合せ先：NPO法人　市民後見サポートの会
- ○TEL/FAX：024－522－1426

福島市

ストーマ保有者の相談会（人工肛門・人口膀胱を造設させた方）

心配事・悩み事…お気軽にご相談ください。ご家族もぜひおいでください。

- ○日　時：毎月第2土曜日（7月12日、8月9日、9月13日）
  13：00~15：00
  ※予約不要。随時お越しください。
- ○場　所：福島市市民会館
- ○参加費：無料
- ○お問合せ先：公益社団法人 日本オストミー協会福島県支部　菅野
- ○TEL/FAX：024－557－2802

須賀川市

輝きながら繋がろう第6回らら♥タイム参加募集

手作り作家さん、各種市民団体さん、須賀川市民個人でもOK！手作り品、雑貨、食品、手作り体験、癒し体験、ライブ、パフォーマンス、子どもの職業体験などの一日限りのイベントに参加してみませんか？

一人一人が輝きながらみんなで繋がっていきましょう！

- ○日　時：8月31日（日）10:00～16:00
- ○場　所：須賀川牡丹園、牡丹会館、花神亭、けやき広場
- ○お問合せ先：夢くりえいとTKBすかがわ
  ららたいむ担当　中野洋子
- ○TEL：070－5328－9744

南相馬市

朝日座を楽しむ会

DVD上映　～サロンde映画会～

- ○日　時：7月26日（土）　13:00～16:00
- ○参加費：500円（茶代）
- ○会　場：朝日座
- ○お問合せ先：朝日座を楽しむ会
- ○TEL：0244－23－5420　担当　小畑

※HPもリニューアル！ ぜひご覧ください。　詳しくはHPへ　http://www.f-saposen.jp

チャレンジ！助成金情報

これからでも申し込みできる助成金情報です。内容は抜粋していますので、詳細については、実施団体やホームページでご確認ください。

これからでも間に合う助成金情報

◆社会福祉活動支援

名称：支援元	**社会福祉助成事業 / （一財）松翁会**
対象事業	社会福祉に関する諸活動に対する援助、社会福祉に関する事業に対しての助成
申込期間	2014年5月1日～2014年7月31日
上限金額	1件あたりの上限額：600,000円
参考URL	http://shouohkai.or.jp/zaidanhojin_shououkai/business/index.html

◆環境保全支援

名称：支援元	**Panasonic NPOサポートファンド 2014年度環境分野 / パナソニック株式会社**
対象事業	調査・研究、事業プロジェクト、組織運営支援、その他
申込期間	2014年7月16日～2014年7月31日
上限金額	1件あたりの上限額：2,000,000円
参考URL	http://panasonic.co.jp/citizenship/pnsf/npo_summary.html

◆災害・復興支援

名称：支援元	**LUSHチャリティバンク（東日本大震災復興支援）/ 株式会社ラッシュジャパン**
対象事業	東日本大震災の被災地で活動を行っている団体への支援
申込期間	2ヶ月に1度、偶数月の月末を応募締め切りとします（当日消印有効）
上限金額	1件あたりの上限額：2,000,000円
参考URL	http://www.lushjapan.com/ethical/charitybank/

◆災害・復興支援

名称：支援元	**現地NPO応援基金[特定助成]「東日本大震災復興支援JT NPO応援プロジェクト」第5回／日本たばこ産業株式会社**
対象事業	岩手県・宮城県・福島県で、活動する民間非営利組織の「地域の人々と共に取り組む、コミュニティの復興・再生・活性化に向けた事業」
申込期間	2014年7月1日～2014年7月15日
上限金額	1件あたり300万円以上500万円以内
参考URL	http://www.jnpoc.ne.jp/?p=6232

◆こどもの健全育成支援

名称：支援元	**Panasonic NPOサポートファンド 2014年度子ども分野 / パナソニック株式会社**
対象事業	調査・研究、事業プロジェクト、組織運営支援、その他
申込期間	2014年7月16日～2014年7月31日
上限金額	1件あたりの上限額：2,000,000円
参考URL	http://panasonic.co.jp/citizenship/pnsf/npo_summary.html

◆まちづくり支援

名称：支援元	**あしたのまち・くらしづくり活動賞 / （公財）あしたの日本を創る協会**
対象事業	その他（詳しくはHPへ）
申込期間	2014年4月15日～2014年7月14日
上限金額	1件あたりの上限額：200,000円
参考URL	http://www.ashita.or.jp/prize/

◆環境保全支援

名称：支援元	**LUSHチャリティバンク（通常版）/ 株式会社ラッシュジャパン**
対象事業	小規模でさまざまな社会課題に対して直接的に活動している草の根団体への支援
申込期間	2ヶ月に1度、偶数月の月末を応募締め切りとします（当日消印有効）
上限金額	1件あたりの上限額：2,000,000円
参考URL	http://www.lushjapan.com/ethical/charitybank/

◆災害・復興支援

名称：支援元	**FunD（被災地の子どものための支援プログラム）/ 株式会社ラッシュジャパン**
対象事業	「FunD」の寄附・助成プログラム、その他
申込期間	毎月月末を応募締め切りとします（当日消印有効）
上限金額	1件あたりの上限額：2,000,000円
参考URL	http://www.lushjapan.com/ethical/charitybank/

◆こどもの健全育成支援

名称：支援元	**ライフキッズスポーツクラブフランチャイズ助成金 / （公財）ライフスポーツ財団**
対象事業	公益財団法人ライフスポーツ財団共催「ライフキッズスポーツクラブ」とし、「幼児期における親子スポーツ事業」と位置づける財団の冠事業
申込期間	2014年4月1日～2014年7月31日
上限金額	1件あたりの上限額：400,000円
参考URL	http://www.lsf.or.jp/joseikin.html

◆文化・スポーツ支援

名称：支援元	**芸術活動への助成 / （公財）朝日新聞文化財団**
対象事業	音楽会、美術展覧会等への助成を通じて、文化、芸術等の発展、向上に寄与する目的、被災地支援を目的とした事業
申込期間	2014年4月1日～2014年12月15日
上限金額	1件あたり1,000,000円
参考URL	http://www.asahizaidan.or.jp/grant/grant01.html

メッセージF ～リレーコラム～

第１回：被災地支援と民民協働
清水 修二（ふくしまNPOネットワークセンター理事）

市民と行政の「協働」について、識者の方からリレー形式でコラムをいただきました。福島のF、復興のF、ファイトのF…みなさんに思いのこもった「F」のメッセージお届けします。

大地震・大津波・原発事故の多重災害に見舞われた福島県がこれからどうなるか・どうするか、発災後３年余りの現在、いろんな意味で節目を迎えているといえます。避難している人たちは帰還か、移住か、避難の継続か、あるいは移住しながらの帰還（元の住所に戻ることはあきらめる）か、の選択を迫られつつあります。復興支援でがんばる民間組織の側も、そうした状況に即した支援の形を考える段階です。

また、福島県に住んでいる（とりわけ子育てをしている）ことの精神的なストレスも小さくありません。放射能という特殊な「敵」に立ち向かうためには、善意だけではダメで科学的な知識が必要ですし、リスク・コミュニケーションの方法論の理解も大事です。

せんだって行ったいわき市での活動交流会では、避難者と避難先住民との間に生まれている心理的な対立が支援活動を非常にやりにくくしているという報告も聞かれました。人々のデリケートな心の領域にも配慮できるだけの高度な知性と感性が、支援者サイドに求められていると言えるかもしれません。

「協働」は、役所と民間の関係について使われることの多い用語ですが、未曾有の災害の渦中にあるこの福島県では、民間組織同士の関係においても相互研鑽（けんさん）という「新しい協働」の構築が強く望まれていると思います。

◆次回は…原野　明子 先生（福島大学）です。

Profile
清水　修二（経済経営学類 国際地域経済専攻）
1980 年3月京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学
・福島大学経済経営学類特任教授、放送大学客員教授
・認定特定非営利活動団体ふくしま NPO ネットワークセンター理事
著書に「原発とは結局なんだったのかーいま福島で生きる意味ー」（東京新聞 2012）など多数。

新たに認証を受けたNPO団体（平成26年4月1日～5月31日）

- NPO 法人民間福祉支援研究会　世覧庶……（二本松市）
- NPO 法人喜楽郷……（柳津町）
- NPO 法人キッズハウス　りんごっこ……（福島市）
- NPO 法人まちづくりみしま……（三島町）
- NPO 法人きもの伝承会……（いわき市）
- NPO 法人ビッグスマイル……（いわき市）
- NPO 法人會津衣倶楽部……（会津若松市）
- NPO 法人福島県会津市民生活支援センター……（会津若松市）
- NPO 法人ふるさと……（南相馬市）
- NPO 法人ふくしま地球市民発伝所……（福島市）
- NPO 法人福島踊屋台伝承会……（福島市）
- NPO 法人 結 倶楽部……（福島市）

学びへの一冊

『ボランティアーもうひとつの情報社会』
金子 郁容 著（岩波新書，1992 年）

ボランティアが社会を豊かにし、
ボランティアが人生を豊かにする
一現代ボランティア論の新しい「古典」

【本の紹介者】
福島大学人間発達文化学類
牧田　実 教授

ふくしまの今と つながる相談室「toiro」

ふくしまの今とつながる相談室
toiro

様々なご相談をひとつひとつ真摯に
受け止め、解決に向けてお手伝いいたします。
【相談ダイヤル】024-573-2731
【開設時間】毎週月曜日・水曜・金曜　10:00～17:00
【窓口担当】佐藤 / 柳本
【運　　営】一般社団法人ふくしま連携復興センター

「復興に向けて歩む地域コミュニティ」からの情報発信事業

Face to Smile
伝えて、つながる。明日への元気隊！

- 月～金 /9:10 ～ 9:20、16:30 ～ 16:40（ふくしま FM）
- 復興・再生に向け頑張っている人たちの「明日へつなげるパワー」を明日への元気隊が体当たり！体験レポート！
- 番組 HP：http://fmf.jp/ftsmile

※ podcast でこれまでの番組をお聴きいただけます。

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課
運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8043　福島県福島市中町８番２号 福島県自治会館７階
TEL：024-521-7333　FAX：024-523-2741
E-Mail：saposen@f-npo.jp
ＵＲＬ：http://www.f-saposen.jp

◆県内の認証NPO法人団体：794団体　◆認定NPO法人団体：8 団体
◆国税庁認定法人：1 団体　　平成26年5月31日現在

編集後記　Editor's note

春は間近かと励ましつつ、もう席に座っている夏。（星）

人間オリゼ菌になり、協働の旨みを出したいです。（美）

県内各地での力強い活動を全力応援中です。（信）

鰊（にしん）の山椒漬がおいしい季節となりました。（小）

新☆ロゴ＆ニュースレター！いかがでしょうか？（温）

喜んで皆様の縁の下の力持ちになります！（邦）